

科目名	日常生活を支援する技術Ⅲ	対象学年・時期	1年・後期
講師	専任教員	単位数・時間数	1単位・30時間
授業概要	<p>看護は具体的な看護実践活動を通して果たされるものであり、看護の目標を達成するために看護技術があることを理解する必要がある。日常生活を支援する技術では、看護の対象となる個人が最適な健康を踏まえた日常生活が営めるようにするために、援助の必要性を考え対象に合った方法を具体的に考える必要がある。看護の実践ができるようになるために、暮らしの中の動作がどのようなからだのしくみによってなされているかを知り、科学的根拠を考えながら援助の必要性を理解し、方法を考えられるようにする。また、援助を受ける対象を観察し、対象の気持ちを考えながら援助を行う必要がある。</p> <p>ここでは日常生活の中で、栄養(食べる)と排泄(トイレに行く)することの意義から健康とのかかわりを知り、対象や場に応じた援助を科学的根拠に基づき実践できる知識、技術、態度を学ぶ。</p>		
授業形態	講義・学内実習		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖生理学的な人間の身体的機能に基づいた援助の根拠が理解できる。 2. 対象における栄養・排泄に関する援助の必要性が理解できる。 3. 対象を観察しながら援助を行うことができる。 4. 安全・安楽・自立を基本とした援助が実施できる。 5. 演習での患者体験・看護師体験を通して、看護師として必要な態度を身につけることができる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1回目 ガイダンス、人間にとっての食の意義 2回目 食事の援助技術 3回目 食事の援助を考える視点 4回目 食事介助(学内実習) 5回目 非経口的栄養摂取の援助(経管チューブの挿入・管理 経腸栄養法 経静脈栄養法) 6回目 非経口的栄養摂取の援助 7回目 人間にとっての排泄の意義 排泄の援助技術 排泄援助を考える視点 8・9回目 自然排便・排尿・便器・尿器を用いた排泄援助ー尿器・便器のあて方ポータブルトイレの介助ー 環境の整備 (学内実習) 10・11回目 浣腸 12回目 おむつ交換、陰部洗浄 13・14回目 導尿・膀胱留置カテーテル挿入患者の観察 15回目 終講試験 		
使用テキスト	・系統看護学講座専門分野 基礎看護学3 「基礎看護技術Ⅱ」第18版 任和子著 医学書院		
事前・事後学修	<p>各授業の前後に指示します。</p> <p>学内実習前には、事前にテキストの該当部分や動画を見て練習をしてから授業に臨んでください。</p>		

	学内実習後には、行った技術の練習を行ってください。
評価基準および評価方法	筆記試験で評価する
備考	

字体は MS 明朝

字の大きさは 10.5 ポイント

列の設定・余白は変えないでください